

日刊建設工業新聞

時代の呼吸に
応える技術。



東熱

東洋熱工業株式会社 <http://www.tonets.co.jp>

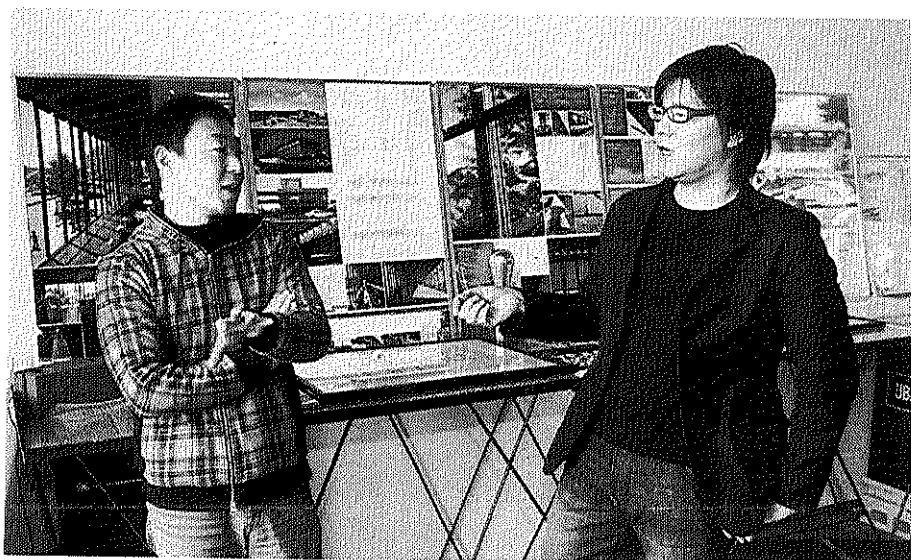
話題

土木系ラジオでもっと語ろう!

ネット配信をスタート

人々の暮らしを支える土木のさまざまな情報を集め、インターネットで発信していく「土木系ラジオ」がスタートした。全国各地で景観・デザインや土木の教育、研究などに携わっている9人がコアメンバーとなり、昨年11月にウェブサイトを立ち上げ、12月に公開した。これまでに建築系ラジオを企画・運営しているメンバーとの合同全体討議や、土木デザインコンペの公開審査に合わせて行われたトークセッションなどを収録・配信している。コアメンバーの西村浩、崎谷浩一郎の2氏に話を聞いた。

(編集部・横川真雄)



—なぜ、土木系ラジオを企画したのか。

西村氏 土木でも景観やデザインの世界がエンジニアリングも含めて盛り上がりを見せているが、そのことが情報として広く伝わっていないとはいえない。土木にかかわる自分たちが、土木について自分の言葉でも

つと説明したり表現したり、あるいは解釈したりしていかないと、これからも伝わっていかないと。そういつた意味で、インターネットラジオはいいツールであり、全国にメンバーがいれば全国の情報を発信できる。土木の世界にも批評の文化を醸成させていき

たい。

崎谷氏 土木のことをもっと語らなければいけないと考えていた。情報があふれている時代だけに、何かをやるにしても質の高い情報を必要とする人たちに伝えていかないと効果が薄れてしまう。インターネットラジオはハンドリングが良く、機動力も高いので、西村さんから企画の話聞いた時、これは面白いと感じた。学生も気軽に聞けるのがいい。

—土木の領域は広い。どのような情報を発信していくのか。

崎谷氏 コアメンバーにはデザインや景観に携わる人たちが多く、どんなことを発信していくのかについては、コアメンバーがそれぞれの軸足でやり始めるしかないと思っている。第1回は建築系ラジオの方々の合同全体討議を収録した。他分野の人と話すことで土木が見えてくることもある。

西村氏 デザインのことが中心の一つになるかもしれないが、施工の話も聞く対談があってもいい



西村 浩氏

(にしむら・ひろし) 67年佐賀県生まれ。93年東大工学系研究科土木工学専攻修士課程修了、GIA設計勤務を経て、99年ワークヴィジョンズ設立。



崎谷 浩一郎氏

(さきたに・こういちろう) 76年佐賀県生まれ。01年東大工学系研究科社会基盤工学専攻修士課程修了、日本工営勤務を経て、03年e a u設立。

土木系ラジオ 土木に関する対談や討論、現地レポートなどを収録し、その音声をウェブサイト(<http://dobokukei.tumblr.com/>)で配信。いつでも・どこでも・誰でも気軽に聞くことができる。企画・運営のコアメンバーは▷西村浩(ワークヴィジョンズ)▷松浦隆幸(オン・ザ・ロード)▷崎谷浩一郎(eau)▷吉谷崇(設計領域)▷福島秀哉(土木研究所寒地土木研究所)▷平野勝也(東北大)▷山口敬太(京大)▷真田純子(徳島大)▷星野裕司(熊本大)一の各氏。学生を対象にサポートスタッフも募集している。

暮らす舞台どうあるべきかを考える

当然り前のように人が暮らす舞台としてものをつくるという思考回路に変えていきたい。

崎谷氏 20、30年ほど前に土木分野で景観やデザインに取り組み始めたころは、いいもの、カッコいいものをつくろうという単体のことが中心だったと思う。それはもう当たり前前の話で、その先の目的として公共事業になせいでデザインが必要なのを考えなければいけない。実際の空間設計ではその答えを出しつつ、言葉として伝えていきたいと考えている。土木に求められているのは、一つの場所をつくることだと思っただけで、地元の方がどう受け止めているのかをダイレクトに吸い上げて伝えていくことが必要だ。何かを変えたいというよりは、土木系ラジオで自分の思っていることを伝え、相手が感じていることを発信していきたい。

西村氏 確かに自分たちが学生のころは橋やダムなど単品のデザインが対象とされ、そこからデザインや景観というものが広まった。単品のデザインだけを考える時代は終わり、地域や人の暮らしを豊かにするために対象としているものがどうあるべきかを議論しなければいけない。それが土木の役割だと認識してほしい。土木がやるべきことはたくさんある。関係する人たちがこの地域をどうしていくかという意識を共有できれば、投資効率も高まってくるはずだ。